



平成22年1月13日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所 残留熱除去系海水系配管の減肉について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、定格電気出力110万キロワット）は、第24回定期検査（平成21年9月7日開始）において、残留熱除去系*1海水系配管（A）系のライニング修繕工事*2を実施していたところ、建屋貫通部付近の熱交換器入口側海水配管外面の一部に腐食跡を確認しました。そのため、当該部の肉厚測定を実施したところ、減肉により必要最小厚さ（7.08mm、管の外径に応じて定められる管の厚さ）を満足しない部位が1箇所（6.7mm）確認されました。

今後、当該配管が減肉した原因について調査するとともに対策を検討してまいります。

本事象は、実用炉規則*3第19条の17の3号の報告事項に該当しております。

現在は、定期検査中であり、本事象が原子炉の安全上に影響を与えるものではありません。又、この事象による周辺環境への影響はありません。

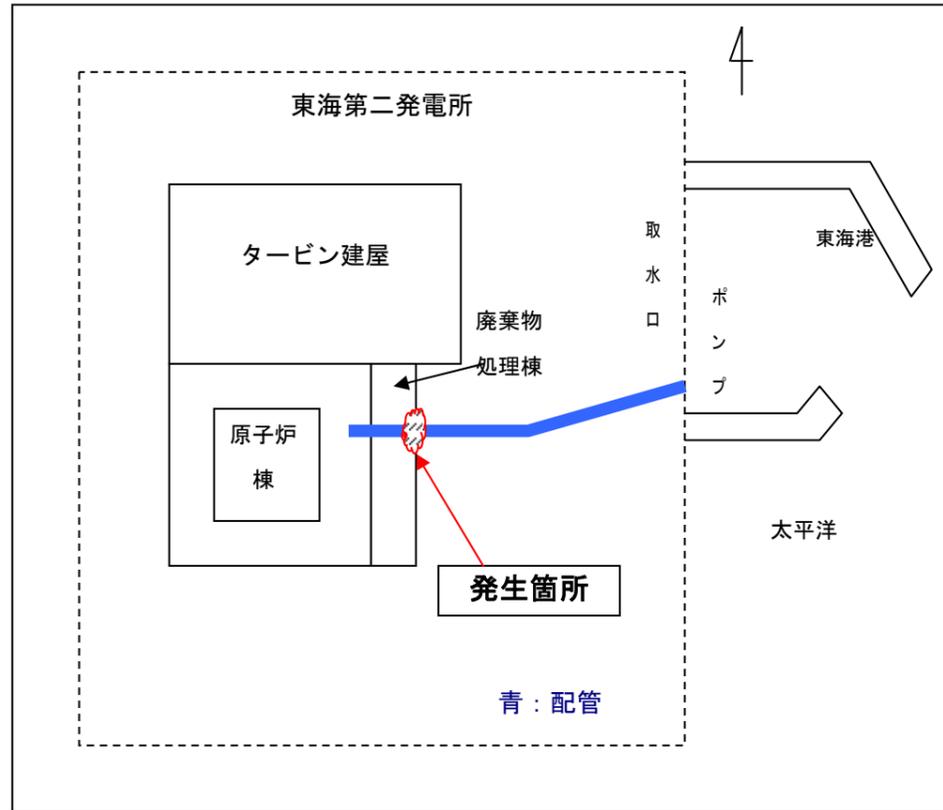
- *1：「残留熱除去系」は、原子炉を停止した後冷却（燃料の崩壊熱の除去）を行う。この時、熱交換器を使用するが、冷却水として海水を用いている。
- *2：残留熱除去海水系配管内面のライニング修繕を第15回定期検査時より計画し実施しており、第25回定期検査時に終了する予定。配管内面ライニングをタールエポキシ材等から劣化しにくいポリエチレン材等に張り替える。
- *3：実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則。

添付資料：残留熱除去系海水系配管の系統概要

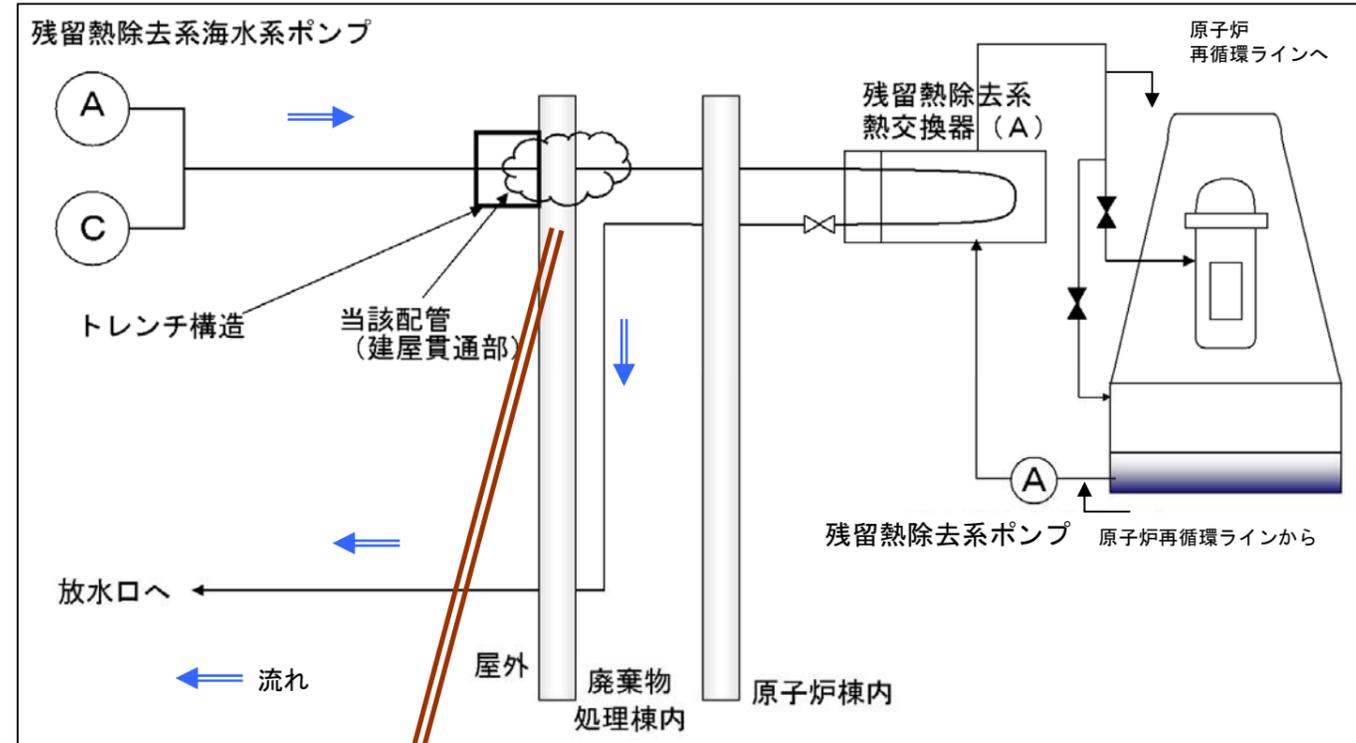
以上

残留熱除去系海水系配管の系統概要

発生箇所概略



系統概略図



減肉部の説明

必要最小肉厚を満足しない箇所・・・1箇所
 場所・・・建屋貫通部（配管下部付近）
 最小肉厚・・・6.7mm

<参考>

配管材質：SM50B（炭素鋼）
 公称肉厚：12.7mm
 外径：508.0mm
 必要最小肉厚：7.08mm

